



第 97 号

平成 26 年 1 月 1 日

発行

本荘由利森林組合

由利本荘市水林 381

TEL 0184 24 4141(代)

FAX 0184 24 4143

木材流通センター 由利本荘市西目町沼田字新道下 1019 1
TEL0184 32 1088 FAX0184 32 1089

製材工場『木香里』 由利本荘市西目町沼田字新道下 1020 1
TEL0184 32 1080 FAX0184 32 1081

HP <http://www.honmori.com/>

メール honmori@trad.ocn.ne.jp

謹賀新年

新年のごあいさつ



代表理事組合長

小松佳和

明けましておめでとございます。

組合員の皆様には、お健やかに清々しい新年をお迎えの事と心よりお慶び申し上げます。また、平素は組合の業務運営全般にわたり組合員はじめ、関係機関の皆様から格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。

一昨年の政権交代から、アベノミクスと称される経済政策が打ち出され、当初予算を超える大型補正予算の執行で、森林・林業関係事業も大きく伸びました。丸太価格は上昇カーブを描き、12月の県内各市場では年当初から25%から40%の値上がりとなりました。

その要因は、消費増税前の住宅建築特需や、政府が進めてきた木材自給率50%を目標とした取り組みに比べ、木材加工業者の国産材利用割合が大幅に増えたことと考えられます。

素材生産者側の事情も絡み、このままの価格で推移するかは不透

明なところですが、値上がり分がいち早く森林所有者へ還元される仕組みづくりが急務であります。

木材利用ポイント事業の活用による住宅の新改築戸数が、大きく伸びている現状をみれば、本年もしばらくは好況を呈して推移するものと期待しています。

また、京都議定書第二約束期間（平成25年から32年まで）における、日本の温暖化防止に向けた温室効果ガス3・8%削減の内、4分の3にあたる2・8%以上を森林吸収源で確保することが表明されました。年平均53万ヘクタールの間伐や植栽が必要となります。国際的な約束を守るためには、応分の予算措置と施業の実施が必須となりますが、高樹齢化した森林の価値を活かしながら、環境問題の一助になればこれ幸いであります。

さて、本年新たに迎える年度は、平成7年3月に管内8組合が合併してちょうど20年目の節目の年で

あります。先人の残した足跡に新たな一歩を加え、大きく飛躍するために組合員皆様のご指導とご支援が何よりの力となります。

以前から、組合員の森林・林業に対する熱の入れようはすばらしく、事業量の多さや林研グループ等の取り組みを見ても、県内では群を抜いていることは明らかです。

組合員皆様が森林を守り地域を守ることができるように、お手伝いすることが組合の使命と認識し、売り手良し、買い手良し、世間良しの「三方良し」の精神を基本に、地域林業の発展と森林所有者の経済的地位の改善・向上を目標にこれからも邁進してまいります。

現状維持は衰退の一途をたどる事になると言われます。新たな挑戦と改革を加えながら、日々努力してまいりますので、組合員の皆様には旧に倍してご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

謹賀新年

代表理事組合長	小松佳和
副組合長理事	鈴木充
副組合長理事	小番勲
理事	佐藤喜久一郎
理事	工藤喜作
理事	猪股長一
理事	豊島晴紀
理事	初瀬東一
理事	佐々木幸一郎
理事	畑山作喜
理事	鈴木敏規
理事	伊藤修二
理事	斎藤惣一郎
理事	岡見晃一
理事	荘司範彦
理事	熊谷典夫
理事	加藤勲
理事	小松貢
理事	佐藤健一
理事	堀川悌二
理事	村上佐左衛門
代表監事	村上佐左衛門
監事	加藤貞藏
監事	加藤進
外職員一同	

第57回 秋田県森林組合大会

11月19日(火)秋田テルサ(御所野)で第57回秋田県森林組合大会が開催されました。大会では、佐藤重芳県森連会長の挨拶に続き、ご来賓のご祝辞と祝電が披露されました。

また、林業功労者等の表彰が行われ、当組合でも役員7名が受賞しました。

議事では、議長に小松組合長が選任され、大会議題の提案者の説明に続き、決議文の朗読がありました。採決ではすべて原案通り承認され、満場の拍手により決議案が採択され大会は終了しました。

《決議》

- 一、秋田スギの循環利用システム構築
- 二、森林所有者へ収益が還元できる低コスト林業の確立
- 三、森林整備を通じた森林機能の持続的な発揮を担保する安定的な財源の確保



役員永年功労者(25年)
小松 貢(由利)

職員永年勤続者(30年)
菊地 綾子(総務課)

職員永年勤続者(20年)
小野 達也(由利支所)
阿部 正輝(矢島支所)
今野 正哲(岩城支所)

優良作業班員
高橋 敦(加工)
熊田 聖二(造林)

部門別優秀表彰
系統購買事業
(本荘由利森林組合)

平成25年度 組合員技術講習会

11月15日、ポートプラザアクアパル(由利本荘市)で組合員技術講習会を開催しました。山形県の株式会社河村式種菌研究所代表取締役齋藤良次氏を講師に迎え「きのこの特性と栽培技術の確立!」をテーマに講演していただきました。昼食後は林産販売課兼造林課係長佐藤智信が「森林GIS・GPSを森林経営に活かす!」をテーマにGIS・GPSの利活用状況を説明しました。どちらにも質疑応答が多数あり、大変充実した技術講習会になりました。



森林・林業をめぐる情勢(4)

森林組合だより第94号から3回にわたり、日本林業がたどってきた経緯をまじえ、現状について述べてきました。

今、こうした現状に、どのように対処すべきか、明快な方向性を見出すことは、非常にむずかしい問題であり、詳しい解析は、専門家の論説にゆだねることとし、ここでは、我々が、心がけるべきことの基本的な事項を列記して、「まとめ」とさせていただきたいと思います。

森林づくりにおいて ～「森林づくり」における基本的な事柄～

尾根には広葉樹を仕立てる

- ・先人の教えの一つに、「林地の養分は尾根から降りてくるので、尾根筋には、広葉樹などの雑木を残しておかないといけません。」ということがあります。(地形にもよりますが、尾根の両側約50mが目安)しかしながら、これまでの拡大造林等においては、こうした原則を守らないままの造林地も多く見受けられます。素直に反省し、少しづつもとの姿にもどしていきましょう。このことが、「里山」が復活するとともに、森林の持続性や健全な地域をつくるという点で大変大切なことです。

初期の間伐は、よりていねいに

- ・スギ人工林の一生で、数回行われる間伐施業。中でも、初期(1～2回目)の間伐は、よりていねいに行わないと良い林になりません。将来性のある木を見極めながら、特に、伐り過ぎに注意しましょう。(本数率は、25～30%以内)
- ・搬出が条件の現制度では、初期間伐が高林齢化なりやすく、また、伐り過ぎになりがちです。こうした点で、造林補助制度では、初期間伐においては、切り捨て間伐の復活が必要です。その後の間伐については、地域材の振興のためにも、集約化等による搬出間伐の制度を大いに活用し、林業収入の増大を図るべきです。

大径材化は避けて通れない

- ・これまで、管内のスギ人工林は、9 齢級(45年生)に達していること、反面、伐採量は、成長量の約4割(総蓄積の1%)程度であることをご紹介しました。これらに加え、今後は、皆伐も一層減少すると予想されています。
- ・こうした現状は、全体的には、今後益々、大径材化が進むことを意味します。しかしながら、現在の丸太価格は、大径材が、むしろ中目材より安いという現状にあります。これは、製材加工面における取り扱い上のコストが主な原因ですが、森林所有者にとっては、納得できない事実です。特に、秋田スギは晩成型で、高齢級になってから、他産地との成長量等の差が顕著になることが認められています。
“秋田スギ”の復活のためにも、大径材の利活用対策を進める必要があります。

林産業について

国産材が動き出す可能性

- ・近年、世界の木材需給の動向に大きな変化が表れています。以前は、世界の木材の多くを日本が輸入していましたが、近年は、中国、インド、アフリカなどにおける木材の需要量が増大し、特に、中国における伸びが著しくなっています。また、ソ連が大幅な関税化に踏み切るなど、世界的には、木材需給量は逼迫ひっばくしており、日本へも以前に比べ、たやすく外材が入りにくい状況になっています。

- ・その現れとして、合板材を積んだトラックが頻繁に往来するようになったことでもわかるように、合板業界において国産材へのシフトが進んでいます。
特に、全国的な合板会社を有する秋田県では、顕著な動きとして表れています。また、全国の集成材工場においても、ラミナの国産材化が進むとともに、ここに来て、大手住宅メーカーの国産材へのシフトが急速に進んでいます。
さらには、国策としても建築物等の国産材利用など、様々な需要拡大策が進められています。
こうした状況を踏まえ、今度こそ、“国産材が本格的に動く”といった見方をする専門家が多くなっています。

外材との競争に加え、国内における競争も激化

- ・国産材の製品などの価格を下げて、外材に対抗するため、今、国内では、川下では、製材工場の大型化、川上では、高性能の機械化によるコスト低減に向かっていきます。欧州などでは、すでに同じ方策で、革命的とも言える大幅なコスト削減を実現しました。
- ・仮に、多くの専門家が指摘するように、“国産材が本格的に動き出した”場合、これまでの外材との競争に加え、国内における新たな競争が始まることが予想されます。いかに市場原理とはいえ、かつて経験したように、その矛先が山元価格へのしわよせという形で表れるようでは、これも森林所有者にとっては納得できません。
- ・今、我々が対処すべきことは、素材生産においても、製材加工においても、人材の育成を含め、効率をあげる工夫をし、低コスト化に努めることです。
組合組織を上げて、コスト意識を高めることが大切と思われれます。

森林所有者として ～森林所有者の方向性～

- ・近年は、森林所有者が自ら山に手入れをし、自ら造林補助申請をするといった形態は、少なくなりました。これは、人も山の木も“高齢化”したため、間伐などは、個人で実施するのは、困難を極めるためです。
- ・こうした中で、森林組合は、地域林業の最大の担い手と位置づけられており、各種助成制度上でも最も優遇されていること、地域の森林資源情報をはじめ、多様な情報を持っていること、地域の森林所有者の最大の協同組織であることなどから、将来的にも、地域林業のまとめ役として大いに期待されています。
- ・本荘由利森林組合は、組合員数約5,700名、組合員所有森林面積が、管内民有林面積の72%に当たる約59千haを有し、全国でも有数の基盤を誇っています。また、新たな「森林経営計画」の集約化にあたっては、これまで、組合員の6割以上の皆様から長期施業委託の同意をいただいています。
- ・本荘由利森林組合員の皆様には、今後とも、組合を通じて様々な情報を得、組合を大いに活用しながら、所有林の維持管理を図り、この厳しい状況を乗り越えていただきたいと願っています。

本荘由利森林組合は、「育てる林業」から「売る林業」への転換を重視しつつ、組合員の皆様のための確実な仕事を通じて、内外に信頼される基盤の強い組織を目指してまいります。



木材市況情報 (平成25年)

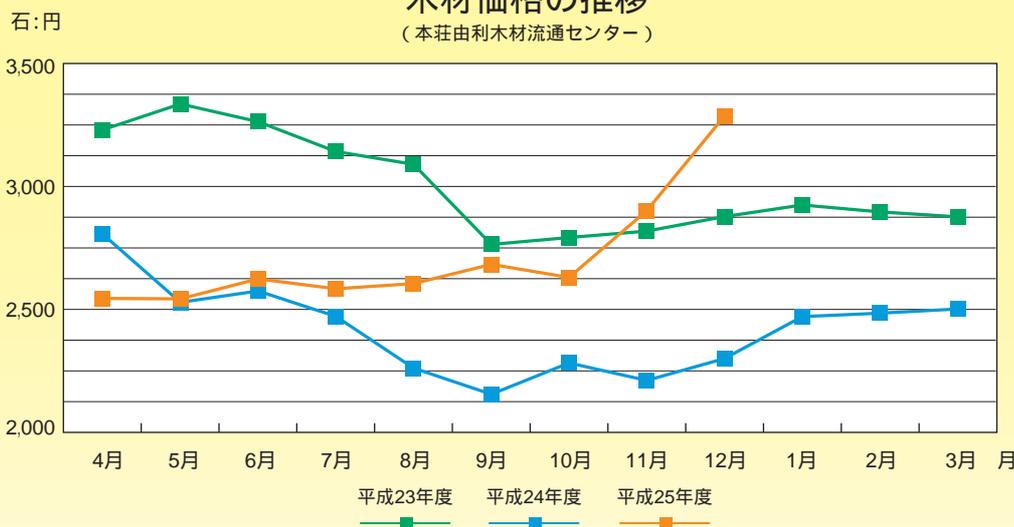
単位：円、上段（石当り価格）
下段 m³当り価格

樹種	材長 m	径級 cm	11月6日			12月3日		
			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高値	安値	平均価格	高値	安値	平均価格
スギ	3.65	16~22	(2,993) 10,777	(2,863) 10,310	(2,902) 10,450	(3,404) 12,255	(3,015) 10,854	(3,273) 11,783
		24~34	(3,980) 14,328	(3,649) 13,138	(3,808) 13,708	(4,496) 16,185	(3,247) 11,689	(4,243) 15,275
出材量・販売量・販売率			774m ³ (2,786石)・772m ³ (2,779石)・99%			768m ³ (2,765石)・768m ³ (2,765石)・100%		

9月：新潟・山形両県の参加に加えて量産工場や地元勢の参加。各径級とも強含みの推移でほぼ完売。
10月：常連の量産工場と山形・新潟勢の参加で各径級とも強い引き合いで完売。
単価も強含みで前月比2,000円以上の上昇。製材品の単価は上がっておらず、ないもの高の様相。

木材価格の推移

(本荘由利木材流通センター)



長級3.65m(12尺) 径級16cm~22cm 直材

	H23年度	H24年度	H25年度
4月	3,230	2,807	2,546
5月	3,355	2,530	2,544
6月	3,263	2,576	2,625
7月	3,142	2,473	2,585
8月	3,090	2,263	2,606
9月	2,765	2,157	2,684
10月	2,793	2,284	2,631
11月	2,819	2,213	2,902
12月	2,878	2,302	3,273
1月	2,925	2,472	
2月	2,897	2,486	
3月	2,877	2,503	

森林組合たより 平成二十六年一月一日発行 印刷・資由利印刷

今後の行事予定

各地区座談会
2月上旬

造林コンクール表彰式
及び林業講演会
2月下旬



平成25年度 林業相談日

相談員：三浦 光喜

1月	17日(金)
2月	21日(金)
3月	14日(金)

年末年始 休業のおしらせ

12月29日(日)~1月5日(日)
1月6日(月)より通常営業します。

